

令和 2年 12月 24日

京都大学野生動物研究センター
センター長 村山美穂 殿

一般社団法人日本霊長類学
会長 中川尚史

京都大学野生動物研究センターの共同利用・共同研究拠点の継続に向けての要望書

京都大学野生動物研究センターは、2008年の設立以来、絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地でのくらしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深め、人間とそれ以外の生命の共生のための研究をおこなうことを目指して、世界各地の研究ステーションや、国内の動物園、水族館等との協力のもと、野生動物に関する教育研究を推進して来られました。2012年からは、共同利用・共同研究拠点として、多くの研究者を受け入れ、専門の枠を超えて「ワイルドライフサイエンス」という新しい学問分野を創成して来られました。

当学会員が研究対象としている霊長類の多くも絶滅危惧種であり、その生息地の保全および飼育下での福祉の向上は、当学会としても重要な課題です。こうした観点からの大型哺乳動物の総合的研究を推進する機関は国内にほとんどなく、今後ますます貴センターの果たす役割は大きくなるものと考えております。

以上の観点から、日本霊長類学会は、京都大学野生動物研究センターが、共同利用・共同研究拠点を継続し、ますます発展されますことを切に要望いたします。